

保育おおさか

平成21年9月1日 第409号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
(大阪府保育協議会)

☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426



多くの参加者でいっぱいの会場

保育部会園長研修会が7月22、23の両日、「保育園における地域貢献事業」をテーマに大阪府社会福祉会館で開催され、2日間で計318名が参加しました。大阪府内各園での地域貢献事業の本格始動を目指し、共通理解を深め、積極的に事業に取り組んでもらうのが大きな目的です。

研修会では永野治男保育部会長が、これまで部会がすすめてきた地域貢献の歴史とスマイルサポート創設につながった経緯について、続いて全国社会福祉施設経営者協議会会長の高岡國士氏が日本の財政や社会福祉分野における現状について講義されました。

主な内容は次の通り。
平成3年には育児相談が各保育園で受けられるよう「育児相談員」の養成を開始しました。

並行して園庭開放をすすめる、地域の子育て家庭にも「安全な遊び場」を提供し、悩みを相談できる体制が整いました。この取り組みは国の保育施

策と合致し、瞬く間に府内をはじめ全国に広がり、大阪が先がけとなりました。

その後、継続した養成研修の実施により育児相談員のノウハウが蓄積され、そのノウハウを

を生かし、子育ての悩みにとどまらず、地域の方々が抱える問題を保育園が窓口となつて関係機関への架け橋となる地域貢献支援事業構想が平成19年に立ち上がり、今年度、大阪府知事認定の「スマイルサポート」誕生へとつながりました。

保育園が生き残るためには「制度にないからやらない」「行政にいわれるからやる」という考え方はなく、各園自らが特色のある事業に取り組んでいく必要があります。

地域に密着した保育園が、地域に積極的に関わって、サポートすることで地域の信頼を得る。社会的な重要性がますます増すことは間違いありません。



永野治男保育部会長

大阪がさがけとなった地域支援

— 永野部会長

地域に関わり信頼を得ることが重要

— 高岡・全国経営協会展

— 園長研修会



高岡國士氏

【日本の財政の現状など】
現在の日本には800

また、制度改革において、制度が変わるから保育のニーズがなくなるというわけではなく、むしろ今まで以上のことが求められる可能性が求められます。

また、制度改革において、制度が変わるから保育のニーズがなくなるというわけではなく、むしろ今まで以上のことが求められる可能性が求められます。

また、制度改革において、制度が変わるから保育のニーズがなくなるというわけではなく、むしろ今まで以上のことが求められる可能性が求められます。

また、制度改革において、制度が変わるから保育のニーズがなくなるというわけではなく、むしろ今まで以上のことが求められる可能性が求められます。

また、制度改革において、制度が変わるから保育のニーズがなくなるというわけではなく、むしろ今まで以上のことが求められる可能性が求められます。

また、制度改革において、制度が変わるから保育のニーズがなくなるというわけではなく、むしろ今まで以上のことが求められる可能性が求められます。

また、制度改革において、制度が変わるから保育のニーズがなくなるというわけではなく、むしろ今まで以上のことが求められる可能性が求められます。



8月中旬、町内で夏祭りがあった。この町内の祭りは規模が大きくて11カ所に区切られている。これまで各町のみこし(太鼓)がかち合わないよう路地を運行するだけだったが、4年前頃から4、500メートルある神社前の道路に夕5時ごろ、太鼓11台が集まり一列になってパレードするようになった。

集結するまでそれぞれ自分の町の周りを巡って町内会で休憩させてもらうが、暑い。日陰を求め、ビールやジュースを買って休憩。太鼓を出したり休んだりしたあと、6時頃には最も早い太鼓が宮入りする。最後の太鼓は8時頃になる。

しかし、なかなか宮入りせずに、みこしを大きく揺すりアピールを競い合う。仮装や笛、ホーン、クラッカーなどを鳴らしたり、一番大掛かりだったのは、町のマーク入りの大きな紙で作った壁らしきところから突然飛び出してきたり。2日間にわたる夏祭りをたっぷり楽しませてもらった。

集結するまでそれぞれ自分の町の周りを巡って町内会で休憩させてもらうが、暑い。日陰を求め、ビールやジュースを買って休憩。太鼓を出したり休んだりしたあと、6時頃には最も早い太鼓が宮入りする。最後の太鼓は8時頃になる。

しかし、なかなか宮入りせずに、みこしを大きく揺すりアピールを競い合う。仮装や笛、ホーン、クラッカーなどを鳴らしたり、一番大掛かりだったのは、町のマーク入りの大きな紙で作った壁らしきところから突然飛び出してきたり。2日間にわたる夏祭りをたっぷり楽しませてもらった。

集結するまでそれぞれ自分の町の周りを巡って町内会で休憩させてもらうが、暑い。日陰を求め、ビールやジュースを買って休憩。太鼓を出したり休んだりしたあと、6時頃には最も早い太鼓が宮入りする。最後の太鼓は8時頃になる。

(編集委員 N・M)

(編集委員 K・M)

相互に学び合う重要性・地域の社会資源活用を

8/13 地域貢献支援員(スマイルサポーター)養成研修

地域貢献支援員(スマイルサポーター)養成研修が8月13日、大阪社会福祉指導センターで開催され、143名の育児相談員が参加しました。

この研修は平成19年度20年度に開催した「地域貢献事業人材養成研修」から名称と一部内容をリニューアルして実施したもので、以下はその主な内容です。

「社会資源の理解と活用」

神戸学院大学 西垣千春教授
今、地域のコミュニティには暮らしの多様なニーズが出現(核家族、介護



より一層の地域貢献を目指して

ひとり暮らしの老人の増加、高齢社会が進むなかで、老老介護など様々な環境に、近所同士が少しでも気が掛け合っていくことが大切です。社会資源とは、いろいろな制度やサービス、そして組織や人を指しています。「それらを活用していくことで『今まで知らなかったことを知る』『気づかなかったことに気づく』など、『ひとりひとりが学ぶこと』より



西垣千春氏

ニートなど)しており、人々の社会的孤立が深刻化しています。西垣氏はまず、「人と人とのつながりが薄れているなかで、ちよつとした変化を感じとってあげられるのは近所の人であり、そこには地域のコミュニティの存在が必要で」と指摘されました。今後、

「関係機関・社会資源について知る①」
大阪府母子寡婦福祉連合会(以下「母子連」)の事業内容や母子家庭への

原淳子事務局長
大阪府母子寡婦福祉連合会(以下「母子連」)の事業内容や母子家庭への



原淳子氏

「相互に学び合うこと」が重要」と西垣氏は強調されました。解決できない問題も、地域の中のいろいろな社会資源を知り、新たに開拓して解決に努力する姿勢が必要で、ひとつの問題は複数の課題を含んでいる場合があり、適切な関係機関や団体へ橋渡しをするために、サポーター自身が地域の社会資源をしっかり知り、活用できるようにならなければならぬと思われま

また、母子家庭などへの日常生活支援として家事援助や児童保育などを行うヘルパーの派遣を実施されています(事前登録制。利用の条件あり)。原氏は「母子連としても、母子家庭などへの支援にあたっては保育園との連携が不可欠です。母子家庭で困っている方がいる場合はぜひ『案内を』と締めくくられました。

「関係機関・社会資源について知る②」
大阪府障がい者自立相談支援センター知的障がい者支援課

杉山萬千子課長
「障害者自立支援法」などの制度や利用方法、障がい者手帳についてどういった障がい者が該当す

るのか、取得のための窓口は、各市町村の障がい福祉担当課であること、また、センターの事業内容や支援内容について説明されました。

地域貢献支援員(スマイルサポーター)養成研修 プログラム

テーマ	講師
地域貢献事業とは	保育部会 地域貢献事業推進委員会
地域福祉入門	大阪府立大学 人間社会学部 准教授 小野 達也 氏
社会資源の理解と活用	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 西垣 千春 氏
福祉事務所の相談業務から学ぶ	元堺市北保健福祉総合センター 所長(福祉事務所長) 佐伯 利之 氏
関係機関・社会資源について知る①	社会福祉法人大阪府母子寡婦福祉連合会 事務局長 原 淳子 氏
関係機関・社会資源について知る②	大阪府障がい者自立相談支援センター 知的障がい者支援課 課長 杉山萬千子 氏
老人福祉施設における社会貢献事業	大阪府社会福祉協議会 社会貢献推進室



杉山萬千子

障がいに関する相談を受けるにあたって、杉山氏は「知的障がい者の支援についてはその方に知的な障がいがあるかどうかは生育歴や生活の状態を聞くこと、知的機能の一定の検査などが必要で

保育園での相談の内容は子育て以外のケースも増えてきています。スマイルサポーターは相談内容から①誰が困っているのか②何が問題か③関わりのある人、機関は何か④を整理し、相談者が問題解決できるようなスムーズに関係機関へ橋渡しする活動をしていかなければならないと思われま

あり判断が難しい。その場で判断をせず、いろいろな情報や知識を取得し、解決策として相談窓口を紹介してもらおうのもひとつ」と強調されました。

豊中市 さくらづか保育園

「おたがいさま」のふれあいで地域に溶け込む
手作り絵本を保護者へ感動のプレゼント



満面の笑みの園児

心のふれあいを保育園から発信されているたまものでしょうか。

「さくらづか保育園の子どもたちみんな宝物」を保育園の基本理念に、「心身ともに健やかで仲間を大切にし、いきいきとした子ども」を保育目標にされています。

さくらづか保育園は豊中市の中心部、阪急岡町駅からほど近い住宅地の中にあります。平成17年4月1日、豊中市が民間へ移管し、社会福祉法人しらくりが運営されています。定員は70名。公立から民間へ移管するには苦労もあったようですが、今では近隣の人たちに愛され、地域に溶け込まれています。

日頃から地域交流を盛んにされ、運動会には事前に近所を回って理解してもらい、焼き芋の時には、煙が出ないよう落ち葉など使わずに炭火で焼いたり配慮されています。「おたがいさま」の

保育園のしおりには「保育園の子どもも地域の子ども、地域の仲間も保育園の仲間」という保育士申し合わせ事項が掲げられており、この考えをもとに、地域で生きていく子どもたちを支える取り組みをされています。園長の土井文子先生によると、朝の「いつてきます」、お迎えの「ただいま」のときは、はぐ（Hug）抱きしめる）しよ（Shy）を保護者に実践してもらっているそうです。わが子に愛情を伝える手段として定着してきたとおっしゃっています。保育実践で注目される



のは手作り絵本。保育士が児童文学作家に手ほどきを受け絵本作りを始めたのですが、翌年には、それを見た5歳児が作るようになりました。卒園式の時、わが子から絵本を手渡され、思いがけないプレゼントにお母さん方は、ただただ感動！自分たちで作った絵本だけに宝物として思い入れもひとしおのようです。（編集委員 M・H）



保育園を たずねて 388



美味しそう

「今日は何かなあ、とワクワクする食事」残さずに食べることに

橋波保育園は今年、開園8年目を迎える守口市の公立民営化園です。園を象徴する「園章」は門扉をかたどったマークで、これから素晴らしい人生を歩む子どもたちの登竜門を

イメージしています。この地に園の教育を根付かせ、保護者にとつてハートフルで信頼できるパートナーでありたい、との願いが込められているようです。橋波保育園では「教育」を軸に、さまざまな取り組みが行われていますが、理念や目標などを含め、どんな言葉よりも、すべてを表しているこの園章が印象的でした。園の取り組みの一つに食育があります。食事は完全米食を実施。米は完全無農薬・無化学肥料で育てた「こだわりコシヒカリ」を使用されています。訪問した日は給食をご馳走になり、ご自慢の米飯給食を編集委員2名が美味しく堪能させていただきました。「今日は何かなあ、とワクワクする食事」残さずに食べることに

守口市 橋波保育園

園章にこめた子どもたちの人生の登竜門
食育にこだわり、和洋中の食事マナー指導



園章

ができる食事」「子どもにも大人にもおいしい食事」は理想の食育であり、食事提供の目標だと思えます。さらに「食育」「教育」の観点から月に一度、5歳児には食事マナー指導を行っています。洋食ではナイフとフォークを使い、和食では割箸の割り方、碗のふたの開け方、中華ではレンジ使いにも挑戦します。その光景は、少なくとも筆者（編集委員）の園ではない光景で、メニューも含め少し羨ましく感じられました。

また、和食には和食器、洋食には洋食器と使い分けておられ、「食器はおいしく食べるための『保育材料』」だと痛感させられました。（編集委員 J・F）

堺市 久世保育園

体験し、発見し、解決力を養う「育てる保育」
バリアフリー設計で障がい児保育にも取組む



広い図書コーナー

自ら問題を発見、解決する力をつけるよう適切な手助けをすること。「子どもをお預かりしている」という心を大切に、子どもの成長のためにすることは積極的に取り入れるとともに、小学校にあっては人も人の顔を見てしっかり話しができる生活習慣を身につけさせるのが「育てる保育」のねらいです。

堺市にある久世保育園は泉北高速鉄道深井駅から徒歩で約7分、田畑と新興住宅地に囲まれ恵まれた環境にあります。堺市立久世保育所が民営化され、平成16年4月から定員150名で開園、6年目を迎えられました。運営されている社会福祉法人愛育社は明治8年、全国で2番目に養護施設を開設された歴史ある法人です。

「育てる保育」が基本方針。個々の子どもたちに応じて能力を伸ばす保育を目指されています。子どもが自ら体験し、自ら問題を発見、解決する力をつけるよう適切な手助けをすること。「子どもをお預かりしている」という心を大切に、子どもの成長のためにすることは積極的に取り入れるとともに、小学校にあっては人も人の顔を見てしっかり話しができる生活習慣を身につけさせるのが「育てる保育」のねらいです。

心の発達を重視され、ボランティアによる本の読み聞かせを通し、本に親しみ、本の大切さを知る機会を作られているのもその一つ。一方、体育でも3歳児以上のクラスでは、体操教室で学んだことを運動会で発表するなど活発です。

最近話題の食育では、屋上の限られたスペースを最大限に生かし、季節の野菜などを栽培、給食の食材に利用。調理師の魚さばきの実演なども行なわれています。

(編集委員 T・S)



保育園を たずねて 389



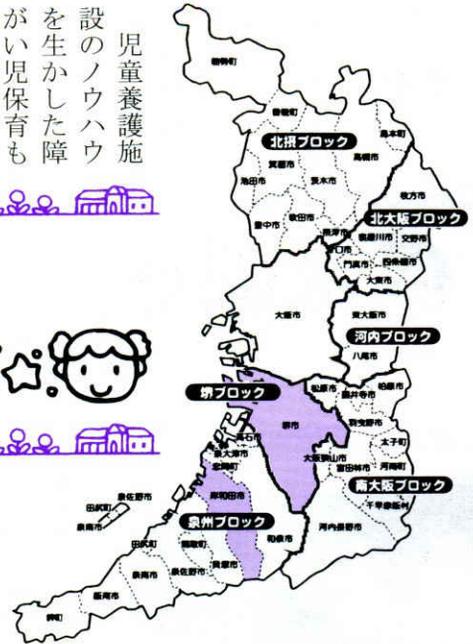
園庭で遊ぶ園児たち

ピープル久米田チャイルドスクールは、元気のよい園児が現在110名ほど毎日楽しく登園。JR久米田駅

「世代間交流」の楽しいひと時を過ごしたそうです。同チャイルドスクールは、平成15年4月1日から社会福祉法人光生会の認可保育

この夏は、ナス、プチトマト、オクラ、かぼちゃ、インゲン豆、スイカ、さつまいも、じゃがいも...と多くの野菜を育て、収穫した食材はもちろん昼食の一品に取り入れられました。とても新鮮で美味しかったそうです。

(編集委員 N・N)



岸和田市 ピープル久米田チャイルドスクール

地元で愛され、卒園児の子、孫世代も利用
食育に注力、苦手の野菜も「食べられたよ！」

から歩いて10分、久米田池・久米田寺のほとり、昔は避暑地で知られた閑静な住宅街にあります。秋祭りになると、「だんじり」が園の近くを囃子と太鼓と若者の威勢のよい掛け声とともに通ります。毎年この時期になると、みんなジッとして見逃せません。障がいのある子どもたちのためのバリアフリー設計や身体を休める部屋も設けられています。

園ではいま、「食育」に力を入れ取り組まれています。毎年、季節に応じた野菜を園内の畑で園児とともに栽培。野菜の成長を楽しみに、種まきや苗植え、水やり...子どもたちは自分の手で収穫した野菜が給食に入っていると大喜び。苦手の野菜も口に運び「食べられたよ！」と感動を分かち合います。



げんきいっぱい登るぞ

今の子どもの体力低下は、親が子離れできていないことにその原因の一端があるのではないかと考えられます。当園では「心も身体もげんきでたくましく」の理念の下、体力づくりに注力してきました。所在地の千早赤阪村には、車で10分ほどに南河内の尾根である金剛山(標高1125メートル)



37

げんき保育園 — 南河内郡千早赤阪村

シリーズ **園児の体力づくり**

金剛山登山に挑戦
忍耐力・助け合いの心養う

がそびえています。開園当初から毎月、年長児は登山をしています。冬は頂上でそりすべりを行います。年中も年に2回、年少は年に1回登ることになっていきます。登山はすばらしい保育手段だと思います。体力がつくのはいうまでもありませんが、何よりも子どもたちを飽きさせない。しかも四季折々の自然を感じさせ、頂上へ着いたときの達成感を覚えさせることができます。情操教育によし、忍耐力養成によし、助け合うことで培われる社会性、協調性の育成にもよい。不都合なことはあまり見当たりません。よく登山について「危なくないですか?」「怪我はしませんか?」といった質問をされることがあ

ります。しかし、危なくには怪我をするということは、子どもが危険を察知する能力を養い、致命的で危険な行動をとることを未然に防ぐことにもつながるわけです。ちよつとした怪我くらいなら痛みがわかり、相手を思いやる気持ちも育まれるというものです。保護者の方みんながそうではありませんが、なかにはわが子に何か起きれば、園や担任の対応がよくないと行ってこられることがある。「怪我をさせないで」といった保護者のスタンスが、かえって保育園を萎縮させ、その結果、温室保育を助長する可能性があります。安全に、清潔に、これでは体力づくりに結びつきません。当園にできることは、子どもたちにどんな体力をつけてもらう一方、保護者の子離れを手助けすることです。このため当園ではお泊り保育を2泊3日で行います。子どもにとっても親にとっても、それは貴重な経験になると思います。ちなみに1日目は園で宿泊、2日目は近くのキャンプ場で泊まります。また、冬は職員も含め



登山途中にある石碑に自然と手を合わせる子ども

半袖で過ごします。そして冬の朝は2歳児から年長まで毎朝マラソンです。近くの住宅街を約1キロメートル。その後、体力ローテーション(鉄棒・

保育園と保護者の方をつなぐコミュニケーションツールとして2005年7月から大阪府下の民間保育園でご利用いただけるきたよい子ネットが、2009年10月1日に新しく生まれ変わります。これまでのよい子ネットは、携帯電話からの利用に特化した作りとなっていました。新しいよい子ネットでは、パソコン専用の画面も加わり、より見やすく使いやすくなりました。これまではホームページ

よい子ネットが新しく

生まれ変わります。

に掲載できる記事の量も限られていましたが、新しいよい子ネットでは記事を投稿することにより豊富な情報を発信することができるようになりました。そのほか記事とは別にメールだけを管理してグループ単位に配信することもできるようになりました。職員だけが閲覧可能なグループも作れるなど活用方法の幅も広がりました。新しいよい子ネットの

跳び箱)です。逆上がりも4歳児になれば全員できます。年中からは一輪車の練習です。年長の運動会ではみんな乗れるんです。擦り傷いっぱいになりながら。わが子の怪我を見るに耐えかね、一輪車への指導を拒否される保護者もなかにはおられますが、粘り強く、辛抱強く、やればできる! ということを説得していきます。そしてついに、子どもが一輪車に乗れた時、その感動をともに味わうことで保護者のみなさんも変わられるようです。



一輪車猛特訓中

これからの日本を担っていく子どもたちのために、私たちともに成長し頑張っていきたいと思えます。(げんき保育園 A・M)

説明会を行っています。ぜひ、ご参加いただき新しいよい子ネットの良さを体感してください。開催日は次の通り。

新・よい子ネット説明会

【日時】

- ①平成21年9月4日(金)
 - ②平成21年9月9日(水)
- 午後2時~午後4時30分
(各日同時開催)

【場所】

大阪社会福祉指導センター
5階ホール

参加希望は事務局まで。



ブロックだより

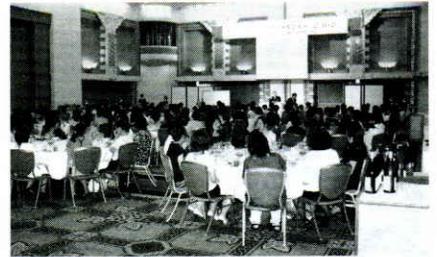
北大阪

正餐のエチケット学び料理も堪能

恒例のテーブルマナー研修会

日頃、激務に追われる保育園の先生方に、仕事を離れ、心身の疲れを少しでも癒していただける研修会になればと企画された恒例のテーブルマナー職員研修会。天神祭の余韻が残る7月29日、帝国ホテル大阪で開催されました。

155名が参加。亀井信昭会長の挨拶の後、当ホテルの西川龍光支配人が、まず社会人として身につけておきたい常識の一つ、テーブルマナーの中でもブルトコールを重んじる正餐の席でのマナー



熱心に講義を聴く参加者

やエチケットについて、平易な言葉でわかりやすく講義されました。その後、水崎勝顧問が乾杯の発声。この日の研修のメインテーマは結婚披露宴に招かれた席でのテーブルマナーで、フランス料理(オードブルからメインディッシュ、デザート、コーヒーまで)をいただきながら、その都度、西川支配人からT・P・Oを考えてのマナーと立ち居振舞いについてユーモアを交えた楽しい説明を伺いました。

泉州

日常保育に活かせるヒントをたぐらん

研修会



楽しい歌声が響き渡る体育館

2時間余り、おいしい料理を堪能しながらの講義で、参加された先生方も充分納得されたのではないかと思います。(囃アサヒケ丘保育園 K・Y)

このコラムが皆さまの目に触れる頃、国政地図はどないに変わっているか、新しいモン好きの大阪人はどっち向いたか? たいへん気になる。これから約20日間は残暑の中、「暑さ寒さも彼岸まで」もうひと踏ん張りの辛抱。

秋といえば、運動会へ向けての活動が活発に。小園でも4歳児には跳び箱に挑戦させる。家では親が箱になり練習をしている話に笑み。
「保育園は運動会の練習があるから嫌!」と登園拒否が必ず出てくる。出番です!「お母さん、子どもが嫌がるからといって挑戦させないの? 大きくなって仕事嫌! 生きる



生きる力養う運動会シーズン 独り占めしたい秋茄子 秋刀魚は手間かけて棒寿司に

対抗リレーなどもあり、運動会は娯楽の少ない時代のイベントだったが、今は村にもパチンコ屋がある時代、また核家族が多くなったこと観覧者数も減ってきているのは確か。競争なんか面白くない! あらかじめタイムを計っておいて差が出ないような組み合わせ。昔は身長順でヨーイドン! 日頃、勉強のできる奴に勝つのはこの時! とばかり、大きな顔するのでもまた、楽しからずや!

あつたけど... ところで「秋茄子は嫁に食わずな!」これには諸説があり、①意地悪姑の嫁いびり②夏野菜は体を冷やすので身重の嫁への思いやり③茄子は種が無いので子孫繁栄を憚ってなどであるが、本音は身の締めまりが一段と良くなり美味い、茄子は独り占めしたい、くらいのところから出てきたのだろう。脂ののった秋刀魚は塩焼きも美味いが、手間かけて棒寿司に。山椒の効いた甘露煮は骨まで柔らかく、少々へピーだがなかなかのモノ。カレンダーのRの仕舞い月、鯖・牡蠣が生でもうすぐ食べられるう!? (H・N)

「運動会や日常の保育に活かせるレクリエーション」をテーマにした研修会が8月1日、南海福祉専門学校の水流寛二講師を招き貝塚総合体育館で開催され約300人の保育士が参加しました。身体を動かす多くのゲームが実施されましたが、広い体育館ではギターとともに保育士の歌声や笑い声が響き渡り、最後には参加保育士全員が一つになったような雰囲気でした。

ゲームを通じて、①子どものかかわり方は、十分な準備をもとに自信を持った表情で接すること

発行所 大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪府社会福祉協議会 保育部 会 大阪府保育協議会 TEL (06) 6762-9001 発行人 男 正 永野集人 齊藤和

②表現方法では、ボディアクションを交えたり、保育士の立ち位置の重要性や声の大小、強弱、テンポ、抑揚、間を意識することの大切さ③集団に適した素材・アクティビティであるかどうか吟味して組み合わせていくこと④導入・展開・発展・終結という計画に基づいた活動展開を考慮すること⑤など日常保育のヒント、集成型ゲームを進めるにあたり保育士に求められているスタンスを学びました。 手話や楽しいゲームも行い、参加者は童心に戻りリフレッシュすることができました。(南海愛児園 Y・I)